

令和5年度 美浜区まちづくり活動報告

Nagomi☆オレンジプロジェクト

認知症の方の“やりたい”を 大切にする場づくり（初年度）



美浜区地域活性化支援事業

2024年3月25日

認知症わかり合いの会「和みかふえ」

解決したい地域課題

2014年8月より、毎月2回、認知症カフェを運営してきた。
認知症の方、介護をする方、地域の方が集える場として運営。
介護をする方や地域の方を中心に、認知症や介護について話したり、
情報を得たり、交流する場として、成果を上げてきた。

1. 認知症の方同士が出会う場
2. 認知症の方を主とした支援の場

← 不十分

認知症になっても、やりたいことを諦めず、希望を持って暮らし続けることを
地域の方たちと支援していく場の必要性

課題解決に向けた活動と目標

地域の方と、認知症の方の“やりたい”を支援する場
「MITTサロン」を毎週開催

【目標】

- ・認知症になっても、やりたいことをあきらめず
前向きに暮らす人を増やす。
- ・認知症の方への接し方を多くの方に知っていただき
地域に認知症の方を支える方を増やす。

実施した活動①

認知症の方の「やりたい」、
当事者同士の「出会い」を支援

MITTサロンの開催(月3回)

- ・毎月第一・三・四木曜日に、くるみplus(磯辺)でMITTサロンを開催。34回、延べ120人参加。
- ・参加者のやりたいことを見つけるのに苦労。
- ・毎週やることを事前に決め、参加者の会話からやりたいことを聞き出して実施した。
(第一週はランチを一緒に作って食事会
第三週は映画会、第四週は音楽の会)



外出支援(計3回)

- ・MITTサロンの活動の一環として、外出支援を3回実施。

4月27日:水郷のまち 佐原を散策(電車利用)

11月30日:レンタカーで、つくば→成田山へ

2月29日:レンタカーで、上総一ノ宮へ

- ・きっかけは「認知症と診断され、車を運転してはダメと言われた。以前のように、車で自由に出かけたい」という言葉から実施。



実施した活動②

地域の方が気軽に認知症を
学び、相談する機会の提供

地域の方が認知症の理解を深
めることで支援者を増やす機会

青空オレンジカフェの開催

- ・5月21日(日)午後、稲岸公園にて、
青空オレンジカフェを開催、32人が参加。
- ・周辺のマンション等への周知や会場設営等
準備に手間がかかった。
- ・多様な方が立ち寄られるよう、サックス演奏や
認知症セミナー、コーヒー提供などを盛り込んだ。



認知症セミナーの開催(1回)

- ・9月10日(日)午後、磯辺で「認知症とともに
自分らしくより良く暮らすには“知って安心！
認知症”」と題し、あんしんケアセンター磯辺
の方を講師にお招きし、セミナーを開催。
地域の方8人が参加。認知症への理解を
深めていただきました。



実施した活動③

認知症の方のやりたいことを
支援している活動を周知

認知症の方に、1年間の活動
をアルバムにして記録

MITTサロン通信の発行(9月、3月)

- ・活動内容周知を目的に、包括などの協力機関
参加者などへ配布
- ・写真を撮っていないことが多く、良い写真を見
つけるのに苦労。
- ・興味をもってもらえるよう見出しを入れた。



思い出のプレゼント (期首計画外)

- ・多く参加している認知症の方(2人)に、1月～12月
の思い出をアルバムにして、2月にプレゼント。
- ・期首計画外もため、写真を探すのに苦労。
- ・ご本人はもちろん、ご家族と観ていただけるよう
郵送。また、ご本人へのメッセージを記載。



活動の成果

- ・認知症の方同士の出会いの場となっている。
- ・認知症の方が、MITTサロンに参加することを楽しみにしてくれている。
- ・地域の方と認知症の方と馴染みの関係ができています。
- ・他団体と会場をシェアすることにより、地域の方が自然に認知症の方と出会い、接し方を学ぶ機会を増やすことができています。
- ・地域の方が、積極的に認知症の方をサポートしてくれている。

認知症になっても、希望をもって暮らしていける
地域づくりへ向けて意識の醸成ができてきている

実践してわかった課題と今後の取り組み

○認知症当事者のやりたいことを引き出す方策の検討

→ 他団体の活動を見学し、スキルアップを図る

○開催場所・日時の検討

→ 認知症カフェ「和みかふえ」を活用する(土日・高洲会場)

木曜日の参加、磯辺の会場までの参加が難しい認知症当事者がいる。
馴染みの人ができれば場所が変わっても問題ない。

○送迎などの対応ができるサポーターの必要性

→ 活動を周知する機会を増やし、サポーターを募る

認知症の進行により会場まで一人で来られない、また外出の要望もあり、これらに対応できるサポーターを増やす必要がある。

本事業実践後の活動目標

本事業を3年間継続し、実践したことから
認知症の方の“やりたい”を支援するノウハウをまとめ
同様の場を作る地域住民を増やしていく。

認知症になっても、この地域なら、
最後まで自分らしく生き生きと暮らしていけると
感じられる地域づくりを推進していく